

まちを魅力的にするには15~20年必要です

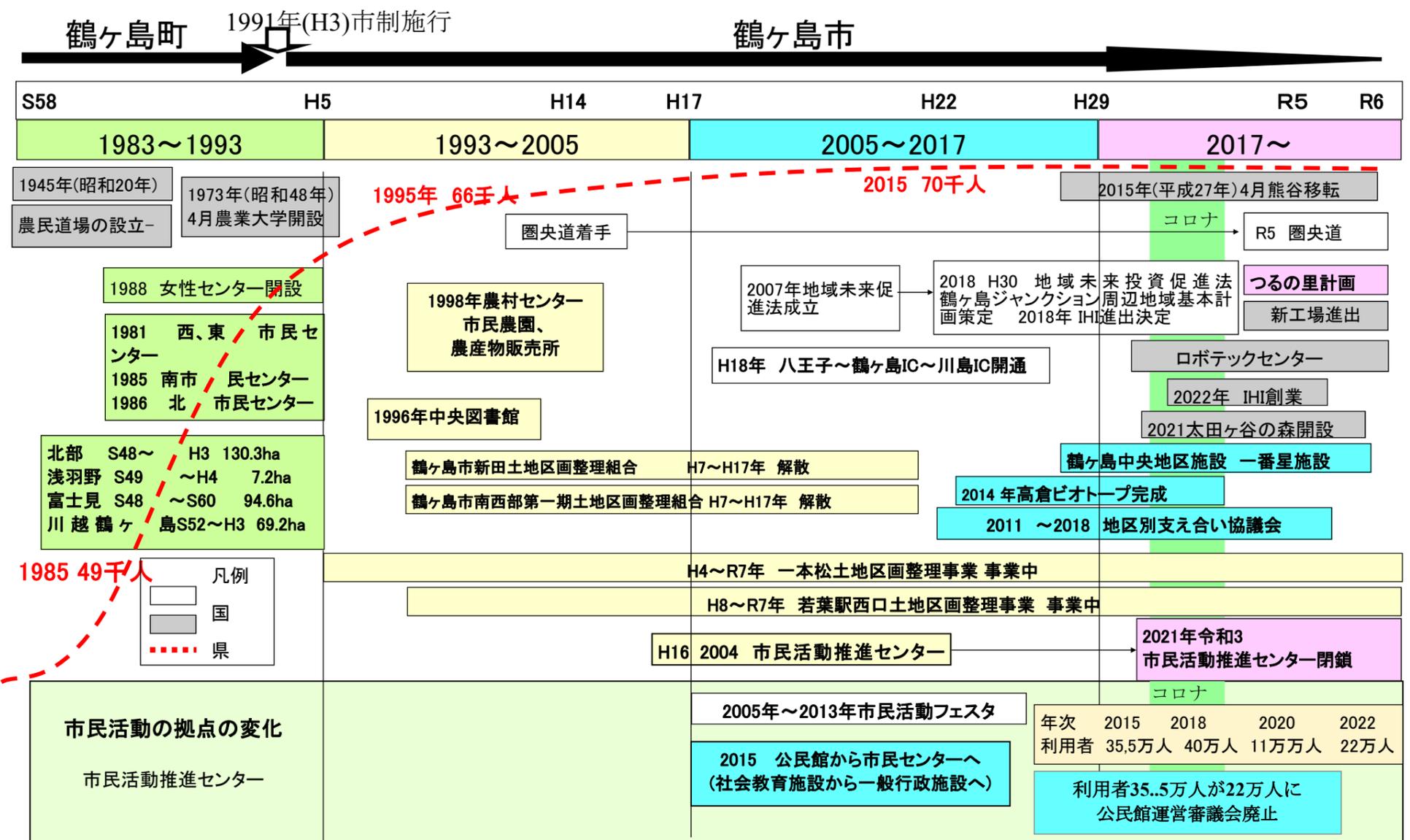
鶴ヶ島のまちづくりの経緯

鶴ヶ島市は、市制施行から33年を迎え、都市化と高齢化の進展を経験してきました。特に1975年から1990年にかけての人口増加を背景に、市街地整備や生活サービス施設の充実が進行。その後も圏央道の開通や農業大学校跡地の活用などにより地域開発が加速し、2007年の「地域未来投資促進法」を活用した取り組みが成果を上げています。これらの変化は昭和50年代

の取り組みが結実したものといえます。現在では、高齢化に対応しつつ、持続可能な地域づくりが求められています。

(地域未来投資促進法は、① 税制 法人税税額控除 地方税軽減 ② 補助金 地方創生推進交付金、各種補助金 ③ 金融 ファンドによるリスクマネー 日本政策金融公庫低利融資 ④ 規制特例 農地転用、開発許可等の配慮 工場立地法緑地面積率の緩和 等の優遇措置があります)
特に、法人税等の特別償却(最大50%)又は税額控除(最大6%)などがある。

鶴ヶ島の40年間のまちづくりの歴史



20年後にどんなまちに、するのか 市民の意識が大切

ちづくりは15~20年で大きく変化すると言われていす。鶴ヶ島市では、人口急増期に都市基盤の整備を進める一方で、新住民同士のつながりを促進するために公民館を整備し、女性センター誘致など男女平等に向けた先進的な取り組みも行われました。また、「まちづ

くりは子ども達から」をスローガンに、子ども議会など教育環境の充実を図り、全国から視察者が訪れる先進的な取り組みを展開しました。これらの努力が現在の鶴ヶ島市の魅力を築いています。今後20年後を見据え、どのような「まち」にするかが問われています。

「まちおこし」から「まちのこし」へ

鶴ヶ島市では、企業立地や住宅開発により里山の自然が減少しており、この傾向は近年さらに加速しています。同市には縄文時代からの歴史や、江戸時代の農業開発の形態が残る高倉地区など、貴重な景観(県指定ふるさとの緑の景観地)が存在します。また、身近に利用できる自然環境は市の魅力の一つで

す。森林の再生には最低50年を要するため、鶴ヶ島市の自然を守り、「人と自然が共生する地域づくり」に向けた長期的な保全施策が求められています。

市民の森を「みんなの森へ」
枝葉の議論ばかりでなく、森の話が大切です。

指標・評価で見る、鶴ヶ島の魅力とは

鶴ヶ島市は、三菱UFJ不動産の評価において、利便性や財政の健全性が高い点が特長とされています。また、住宅会社の広告では、周辺市町村と比較して利便性と豊かな緑が評価されています。

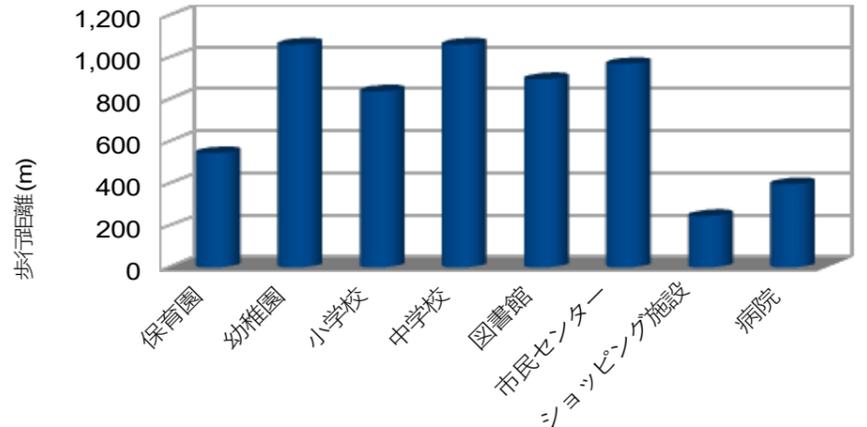
表1 全国1718市町村の順位

		順位	鶴ヶ島市	川越市	坂戸市	日高市
住みよさランキング	総合評価	埼玉県内	28位	10位	36位	20位
		全国	571位	408位	715位	535位
	偏差値		48.86	49.72	47.75	49.06
項目別順位	安心度	埼玉県内	37位	25位	32位	5位
		全国	798位	722位	757位	465位
	利便度	埼玉県内	4位	22位	28位	38位
		全国	172位	638位	713位	773位
	快適度	埼玉県内	11位	8位	19位	22位
		全国	75位	47位	161位	216位
富裕度	埼玉県内	31位	5位	32位	28位	
	全国	408位	150位	413位	386位	
財政健全度ランキング	総合評価	埼玉県内	10位	27位	29位	25位
		全国	110位	221位	228位	190位
	偏差値		53.88	52.11	52	52.7
項目別全国順位	収支		217位	326位	252位	204位
	弾力性		155位	625位	275位	203位
	財政力		193位	87位	263位	259位
	財政基盤		316位	165位	478位	410位
	将来負担		120位	348位	186位	165位
	人口		396位	67位	283位	491位
全市区町村順位	面積		1594位	938位	1363位	1309位
	財政力指数		208位	95位	251位	208位
	農業		1068位	432位	1226位	993位
	工業		729位	57位	410位	382位
	所得		280位	207位	392位	448位

生活環境施設の充実した都市

市内の生活関連施設は最大1,000m未満の距離にあり、利用しやすい環境にあります。日常的に20分以上(約2km)の散歩を推奨するとともに、高齢者にも安全で優しい自転車道の整備が求められています。

施設別最大歩行距離 (m)



生活施設	数	平均距離	主な施設
店舗など	94店	約300m	
病院、診療所	36施設	約400m	
保育園等	19園	約550m	
幼稚園	5園	約1,100m	
小学校	8校	約850m	
中学校	5校	約1,100m	
図書館など	7カ所	約900m	本館、分館6カ所
市民センター	6カ所	約1,000m	
女性センター	1カ所		ホール
農村センター	1カ所		市民農園、農産物販売所

自然と人が共生した地域づくりが出来るまち

高齢化や人口減少が進む地域では、自然環境を地域づくりの基盤とし、環境保全をあらゆる側面に組み込むことが求められています。これにより、自然環境の適切な保全と活用を図り、自然と人が共生する地域づくりを進めることが課題となっています。

(環境省「都市と農村の交流」、農林水産省「都市と農山漁村の共生・対流への取組」)

鶴ヶ島市は、市民の森など里山の保全に先駆的に取り組んでおり、住宅地の近くに公開された「市民の森」が6か所もある、緑豊かな都市の一つです。市域の約半分は市街地、もう半分は農業地で構成されており、「お互いに顔の見える」関係を発展させながら、双方の地域で環境保全に取り組める特徴があります。また、グランドワーク・トラストをモデルとしたグリーンツーリズムの実現も期待されています。

「森の心地良さ」のあるまちを!!

森を残すためには、市民の皆様の声や力が必要です

鶴ヶ島市は身近な自然に恵まれた魅力的な地域ですが、圏央道の開通や鶴ヶ島インターチェンジ周辺での物流施設や大型店舗の開発により、里山の面積が減少しています。森の再生には30~50年かかるため、早急な保全対策が必要です。未来の「緑豊かな鶴ヶ島」を守るためには、市民の協力が欠かせません。



「自然を大切にし、森の心地良さのあるまちを!!」

鶴ヶ島市は平成24年に「鶴ヶ島市平和都市宣言」を行い、「自然を大切にし、人と自然が共生できるまち」を目指すことを誓いました。この宣言を提案した子ども協議会のメンバーは現在社会で活躍していると考えられます。

しかし、その間に市内の自然は大きく減少しています。この問題に対し、市民一人ひとりが真剣に向き合い、行動する必要があります。

残したい鶴ヶ島の自然

2020年の里山の現況

2005年の里山面積は149haでしたが、2020年には108haに減少し、41haが失われました。2020年以降、交通利便性の向上により多くの企業が進出し、開発可能な林地が開発されています。

今年度だけで3ha以上が消失しました。また、道路整備や相続に、藤金市民の森の3倍1相当の森が消失しました。

つるがしま緑のまちづくり計画 1998-2020

鶴ヶ島市は、2020年に終了した「緑のまちづくり計画」に基づき、市民管理制度による「市民の森」を全国で初めて指定しました。かつては日本一の規模を持っていましたが、現在は千葉市に次いで2番目となっています。それでも人口当たり1.8㎡の面積を有し、日本一の市民の森の水準を維持しています。20年以上身近な森の保全活動などの取り組みが「緑豊かなまち」としての魅力を育んできました。

第6次鶴ヶ島市総合計画(前期計画)の政策34では、貴重な樹林地や屋敷林の保全が明記されており、急激な森の消失に対する具体的な取り組みが求められています。

長期的で具体的な政策が必要

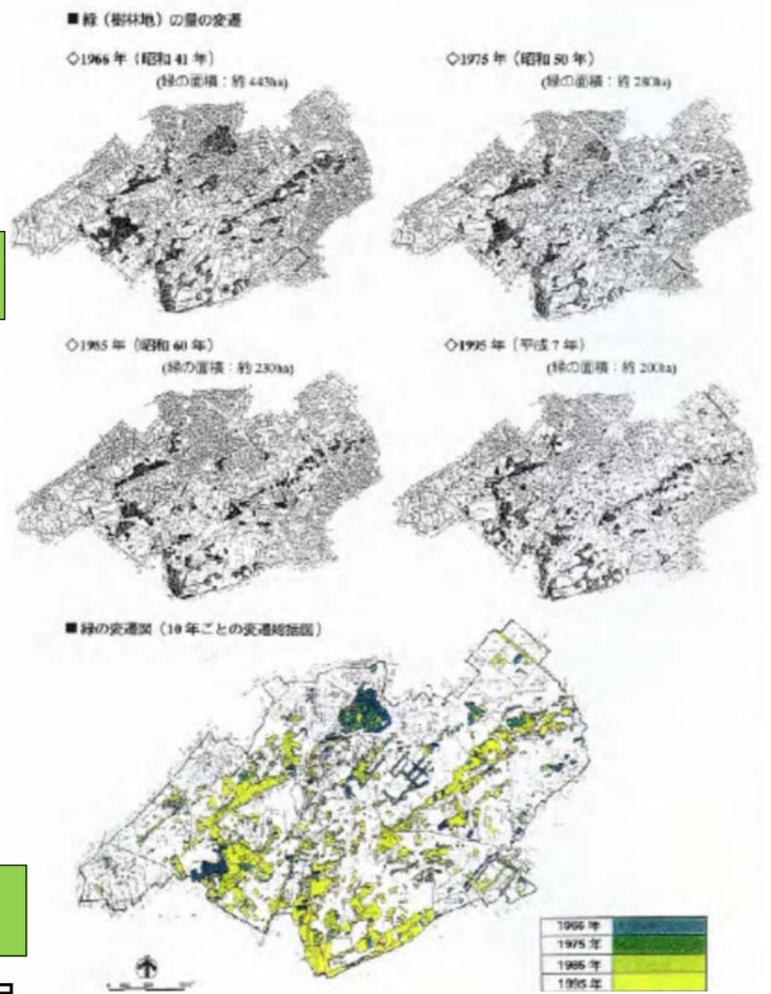
「開発か保全か」という議論の中で、地域の発展には「開発も保全も」という視点が重要です。

森を育てるには50年から100年が必要であるため、長期的な視点で守るべき森を特定し、代行買収制度の活用などの具体的な政策を展開することが求められています。

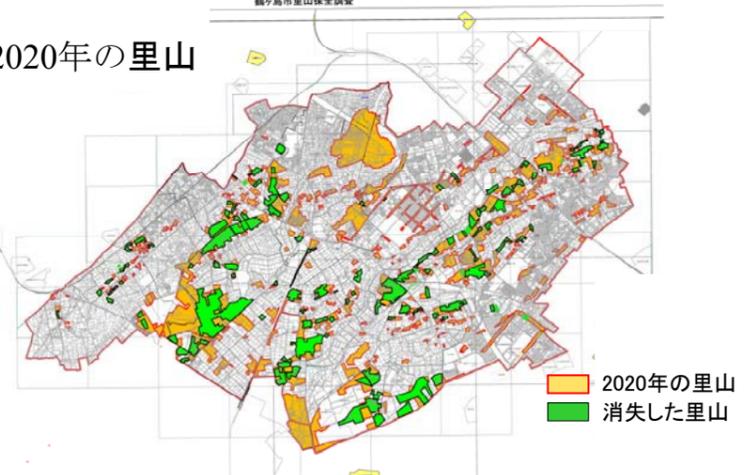
里山の役割



つるがしま緑のまちづくり計画 1998-2020



2020年の里山



市民の森を子ども達へ残したい !!

市民の森は地主の協力で借地として、市民に公開されています。NPOつるがしま里山サポートクラブの活動は、里山を次の世代の子どもたちに残していきたいとの願いで活動しています。

20年以上にわたり、延べ約6万人の市民に森が利用されてきました。この森は地域の魅力の一つですが、

地主の高齢化や里山の消失が課題となっています。

これに対し、新設の国の代行買収制度を活用し、守るべき森を特定する政策やふるさと納税を活用した「緑の基金」の設立などによる買収などの、具体的取り組みが求められます。